

## Ⅱ 調査結果の概要

注) 文中において、「前期」「今期」「来期」については、特に説明がない限り、以下の時期である。

- 前期 平成29年 1月～平成29年 6月期
- 今期 平成29年 7月～平成29年12月期
- 来期 平成30年 1月～平成30年 6月期

## 1. 景況天気図

### 【業況判断(全体)】

	H29年7~9月期(実績)	H29年10~12月期(実績)	H30年1~3月期(見込み)	H30年4~6月期(見通し)
全体				
BSI	(▲14.8)	(▲15.6)	(▲26.7)	(▲22.9)

### 【従業者規模別】

	H29年7~9月期(実績)	H29年10~12月期(実績)	H30年1~3月期(見込み)	H30年4~6月期(見通し)
4人以下				
BSI	(▲28.8)	(▲33.7)	(▲43.5)	(▲36.8)
5人~19人				
BSI	(▲17.2)	(▲13.9)	(▲25.8)	(▲28.4)
20人以上				
BSI	(▲2.5)	(▲3.2)	(▲15.0)	(▲8.5)

### 【業種別】

	H29年7~9月期(実績)	H29年10~12月期(実績)	H30年1~3月期(見込み)	H30年4~6月期(見通し)
製造業計				
BSI	(▲15.7)	(▲16.7)	(▲23.6)	(▲19.7)
非製造業計				
BSI	(▲14.5)	(▲15.3)	(▲27.5)	(▲23.7)
建設業				
BSI	(▲5.9)	(▲7.4)	(▲27.6)	(▲25.1)
運輸・通信業				
BSI	(▲10.4)	(▲5.6)	(▲21.6)	(▲19.2)
卸・小売業				
BSI	(▲21.5)	(▲25.9)	(▲26.6)	(▲27.9)
飲食・宿泊業				
BSI	(▲28.9)	(▲36.0)	(▲46.5)	(▲38.6)
サービス業				
BSI	(▲12.0)	(▲9.0)	(▲20.9)	(▲13.4)

### 【凡例】

天気マーク						
BSI水準	(30.1~)	(10.1~30.0)	(▲10.0~10.0)	(▲10.1~▲30.0)	(▲30.1~▲50.0)	(▲50.1~)
矢印マーク						
BSI前期比	10ポイント以上増加	10ポイント以上減少				

## 2. 調査結果の総括

新潟市内事業所の「業況判断」については、平成29年7～9月期は同4～6月期から改善し、続く29年10～12月期は同7～9月期とほぼ同水準で推移した。足元の30年1～3月期は29年10～12月期から大きく悪化する見込みであるが、先行きの30年4～6月期は同1～3月期から再び改善する見通しとなっている。

今期における他の主要項目のBSIをみると、「生産・売上」、「受注」、「出荷量」はいずれも上昇し、特に、「生産・売上」、「出荷量」については大きく上昇したほか、「資金繰り」も改善した。在庫では「製・商品在庫」がほぼ同水準で推移し、「原材料在庫」は過剰幅が縮小した。価格では「仕入価格」が大きく上昇し、「販売価格」もやや上昇した。雇用では「所定外労働時間」、「一人当たり人件費」がともに上昇した。

経営上の問題については、「人材不足」の割合が最も高く、以下「労働者不足」、「生産・受注・売上げ不振」と続いている。

業界の動向としては、受注量の増加や販売価格の上昇による業況の好転を実感する声があったが、一方では、人手不足による受注への対応力の低下や仕入単価・各種経費の増加による採算面の課題を挙げる声も多く見られた。

## 3. 新潟市景況調査結果 (BSI) の総括表

1. 業況 P. 12～	<ul style="list-style-type: none"> <li>29年7～9月期の業況感を示した業況BSI（「良い」－「悪い」）は▲14.8と、同4～6月期の▲23.0から8.2ポイント改善した。続く29年10～12月期は▲15.6と、同7～9月期とほぼ同水準で推移した。</li> <li>足元の30年1～3月期は▲26.7となり、29年10～12月期から11.1ポイント悪化する見込みであるが、先行きの30年4～6月期は▲22.9と、同1～3月期から3.8ポイント改善する見通しとなっている。</li> </ul>
2. 生産・売上 P. 20～	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期の生産・売上BSI（「増加」－「減少」）は▲6.2と、前期（▲16.3）から10.1ポイント上昇した。来期は▲17.2と、今期から11.0ポイント低下する見込みとなっている。</li> </ul>
3. 受注 (製造業・建設業のみ) P. 25～	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期の受注BSI（「増加」－「減少」）は▲7.2と、前期（▲14.7）から7.5ポイント上昇した。来期は▲17.5と、今期から10.3ポイント低下する見込みとなっている。</li> </ul>
4. 出荷 (製造業のみ) P. 28～	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期の出荷量BSI（「増加」－「減少」）は▲0.9と、前期（▲10.9）から10.0ポイント上昇した。来期は▲8.9と、今期から8.0ポイント低下する見込みとなっている。</li> <li>今期の出荷額BSI（「増加」－「減少」）は▲1.0と、前期（▲11.0）から10.0ポイント上昇した。来期は▲8.4と、今期から7.4ポイント低下する見込みとなっている。</li> </ul>
5. 在庫水準 (原材料在庫は製造業のみ) P. 33～	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期の製・商品在庫BSI（「過剰」－「不足」）は1.5と、前期（1.3）とほぼ同水準で推移した。来期については0.1と、今期から1.4ポイント過剰幅が縮小し、適正化が進む見込みとなっている。</li> <li>今期の原材料在庫BSI（「過剰」－「不足」）は1.0と、前期（2.1）から1.1ポイント過剰幅が縮小した。来期は1.5と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。</li> </ul>
6. 価格 P. 41～	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期の仕入価格BSI（「上昇」－「低下」）は28.7と、前期（15.8）から12.9ポイント上昇した。来期については27.5と、今期から1.2ポイント低下する見込みとなっている。</li> <li>今期の販売価格BSI（「上昇」－「低下」）は0.0と、前期（▲7.9）から7.9ポイント上昇した。来期は▲0.8と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。</li> </ul>
7. 資金繰り P. 51～	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期の資金繰りBSI（「好転」－「悪化」）は▲9.9と、前期（▲12.9）から3.0ポイント改善した。来期は▲12.9と、今期から3.0ポイント悪化する見込みとなっている。</li> </ul>

<p>8. 雇用 P. 56～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>29年度の雇用BSI（正社員の数）（「増加」－「減少」）は▲1.1と、28年度（▲1.0）とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。30年度は6.7と、今期から7.8ポイント上昇し、マイナスからプラスに転じる見通しとなっている。</li> <li>29年度の臨時・パート社員等の雇用BSI（「増加」－「減少」）は▲2.7と、28年度（0.9）から3.6ポイント低下し、プラスからマイナスに転じる見込みとなっている。30年度は▲2.4とほぼ同水準で推移する見通しとなっている。</li> <li>今期の所定外労働時間BSI（「増加」－「減少」）は▲3.3と、前期（▲8.6）から5.3ポイント上昇した。来期は▲8.0と、今期から4.7ポイント低下する見込みとなっている。</li> <li>今期の一人当たり人件費BSI（「増加」－「減少」）は28.1と、前期（20.7）から7.4ポイント上昇した。来期は24.8と、今期から3.3ポイント低下する見込みとなっている。</li> </ul>
<p>9. 設備投資動向 P. 76～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今期の生産設備BSI（「過剰」－「不足」）は▲4.0と、前期（▲6.7）から2.7ポイント上昇し、不足幅が縮小した。来期は▲4.5と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。</li> <li>今期の営業用設備BSI（「過剰」－「不足」）は▲4.1と、前期（▲3.8）とほぼ同水準で推移した。来期も▲4.1と、今期と同水準で推移し、不足が続く見込みとなっている。</li> <li>29年度における設備投資の実施事業所割合（実績見込み）は26.7%と、28年度より4.1ポイント上昇する見込みとなっている。30年度は18.8%と、29年度から7.9ポイント低下する見通しとなっている。</li> <li>29年度の設備投資の目的（複数回答）としては、「既存機械・設備の入れ替え」が62.4%と圧倒的に高く、次いで「生産能力増大の為の機械・設備導入」（21.2%）となっている。</li> </ul>
<p>10. 経営上の問題 P. 85～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営上の問題（複数回答）については、全体では「人材不足」（47.3%）の割合が最も高く、以下「労働力不足」（33.7%）、「生産・受注・売上げ不振」（33.4%）、「仕入価格の上昇」（29.7%）と続いている。</li> </ul>

<p>4. 業種別 新潟市景況調査結果（BSI）の総括表</p>	
<p>製造業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>29年7～9月期の業況判断BSIは▲15.7と、同4～6月期（▲16.0）とほぼ同水準で推移し、続く29年10～12月期は▲16.7と、引き続きほぼ同水準で推移した。足元の30年1～3月期は▲23.6と、6.9ポイント悪化する見込みとなっている。一方、先行きについてみると、30年4～6月期は▲19.7と、改善する見通しとなっている。</li> <li>今期の生産・売上BSIは▲1.5と、前期（▲11.7）から10.2ポイント上昇した。来期は▲13.3と、低下する見込みとなっている。</li> <li>今期の受注BSIは▲1.0と、前期（▲8.4）から7.4ポイント上昇した。来期は▲9.4と、低下する見込みとなっている。</li> <li>今期の製・商品在庫BSIは0.0と、前期（3.0）から3.0ポイント低下し、適正化が進んだ。来期は0.0と、引き続き適正水準で推移する見込みとなっている。</li> <li>今期の仕入価格BSIは33.9と、前期（22.3）から11.6ポイント上昇した。また、販売価格BSIは▲2.9と、前期（▲5.0）から2.1ポイント上昇した。</li> <li>今期の資金繰りBSIは▲8.9と、前期（▲10.5）から1.6ポイント改善した。来期は▲14.3と、悪化する見込みとなっている。</li> <li>29年度における設備投資の実施事業所割合は29.5%と、前年度（24.0%）から上昇する見込みとなっている。</li> <li>経営上の問題（複数回答）については、「生産・受注・売上げ不振」（43.3%）の割合が最も高く、以下「人材不足」（41.9%）、「仕入価格の上昇」（37.4%）と続いている。</li> </ul>

<p>非製造業 計</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>29年7～9月期の業況判断BSIは▲14.5と、同4～6月期（▲25.0）から10.5ポイント改善し、続く29年10～12月期は▲15.3と、ほぼ同水準で推移した。足元の30年1～3月期は▲27.5と、12.2ポイント悪化する見込みとなっている。一方、先行きについてみると、30年4～6月期は▲23.7と、改善する見通しとなっている。</li> <li>今期の生産・売上BSIは▲7.3と、前期（▲17.6）から10.3ポイント上昇した。来期は▲18.3と、低下する見込みとなっている。</li> <li>今期の仕入価格BSIは27.3と、前期（14.0）から13.3ポイント上昇した。また、販売価格BSIも0.7と、前期（▲8.8）から9.5ポイント上昇し、マイナスからプラスに転じた。</li> <li>今期の資金繰りBSIは▲10.3と、前期（▲13.7）から3.4ポイント改善した。来期は▲12.7と、悪化する見込みとなっている。</li> <li>29年度における設備投資の実施事業所割合は25.9%と、前年度（22.3%）から上昇する見込みとなっている。</li> <li>経営上の問題（複数回答）については、「人材不足」（48.7%）の割合が最も高く、以下「労働力不足」（35.5%）、「生産・受注・売上げ不振」（30.8%）と続いている。</li> </ul>
<p>建設業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>29年7～9月期の業況判断BSIは▲5.9と、同4～6月期（▲30.0）から24.1ポイント改善したが、続く29年10～12月期は▲7.4と、1.5ポイント悪化した。足元の30年1～3月期は▲27.6と、さらに20.2ポイント悪化する見込みとなっている。一方、先行きについてみると、30年4～6月期は▲25.1と、改善する見通しとなっている。</li> <li>今期の生産・売上BSIは▲4.9と、前期（▲19.5）から14.6ポイント上昇した。来期は▲20.7と、低下する見込みとなっている。</li> <li>今期の受注BSIは▲13.3と、前期（▲21.9）から8.6ポイント上昇した。来期は▲25.6と、低下する見込みとなっている。</li> <li>今期の仕入価格BSIは28.6と、前期（13.8）から14.8ポイント上昇した。また、販売価格BSIは0.4と、前期（▲15.2）から15.6ポイント上昇し、マイナスからプラスに転じた。</li> <li>今期の資金繰りBSIは▲9.4と、前期（▲14.8）から5.4ポイント改善した。来期は▲13.3と、悪化する見込みとなっている。</li> <li>29年度における設備投資の実施事業所割合は28.9%と、前年度（23.5%）から上昇する見込みとなっている。</li> <li>経営上の問題（複数回答）については、「人材不足」（51.7%）の割合が最も高く、以下「労働力不足」（41.9%）、「生産・受注・売上げ不振」（40.4%）と続いている。</li> </ul>
<p>運輸・通信業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>29年7～9月期の業況判断BSIは▲10.4と、29年4～6月期（▲17.5）から7.1ポイント改善し、続く29年10～12月期は▲5.6と、さらに4.8ポイント改善した。一方、足元の30年1～3月期は▲21.6と、16.0ポイント悪化する見込みとなっている。先行きについてみると、30年4～6月期は▲19.2と、再び改善する見通しとなっている。</li> <li>今期の生産・売上BSIは1.6と、前期（▲13.9）から15.5ポイント上昇し、マイナスからプラスに転じた。来期は▲10.4と低下し、再びマイナスに転じる見込みとなっている。</li> <li>今期の仕入価格BSIは29.6と、前期（13.1）から16.5ポイント上昇した。また、販売価格BSIは8.0と、前期（▲0.7）から8.7ポイント上昇し、マイナスからプラスに転じた。</li> <li>今期の資金繰りBSIは▲5.6と、前期（▲6.5）とほぼ同水準で推移した。来期も▲6.4と、ほぼ同水準で推移する見込みとなっている。</li> <li>29年度における設備投資の実施事業所割合は35.5%と、前年度（31.8%）から上昇する見込みとなっている。</li> <li>経営上の問題（複数回答）については、「人材不足」（52.8%）の割合が最も高く、以下「労働力不足」（41.6%）、「人件費の増加」（32.0%）と続いている。</li> </ul>

<p>卸・小売業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>29年7～9月期の業況判断BSIは▲21.5と、同4～6月期(▲36.1)から14.6ポイント改善したが、続く29年10～12月期は▲25.9と、4.4ポイント悪化した。足元の30年1～3月期は▲26.6と、ほぼ同水準で推移する見込みとなっている。先行きについてみると、30年4～6月期は▲27.9と、悪化する見通しとなっている。</li> <li>今期の生産・売上BSIは▲16.4と、前期(▲33.5)から17.1ポイント上昇した。来期は▲19.6と、低下する見込みとなっている。</li> <li>今期の仕入価格BSIは29.8と、前期(8.4)から21.4ポイント上昇した。また、販売価格BSIは0.0と、前期(▲15.5)から15.5ポイント上昇した。</li> <li>今期の資金繰りBSIは▲4.5と、前期(▲20.0)から15.5ポイント改善した。来期は▲11.4と、悪化する見込みとなっている。</li> <li>29年度における設備投資の実施事業所割合は20.7%と、前年度(24.0%)から低下する見込みとなっている。</li> <li>経営上の問題(複数回答)については、「人材不足」(45.6%)の割合が最も高く、以下「競合の激化」(41.8%)、「生産・受注・売上げ不振」(38.6%)と続いている。</li> </ul>
<p>非製造業 飲食・宿泊業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>29年7～9月期の業況判断BSIは▲28.9と、同4～6月期(▲30.9)から2.0ポイント改善したが、続く29年10～12月期は▲36.0と、7.1ポイント悪化した。足元の30年1～3月期も▲46.5とさらに10.5ポイント悪化する見込みとなっている。一方、先行きについてみると、30年4～6月期は▲38.6と、改善する見通しとなっている。</li> <li>今期の生産・売上BSIは▲22.8と、前期(▲14.2)から8.6ポイント低下した。来期は▲30.7と、更に低下する見込みとなっている。</li> <li>今期の仕入価格BSIは50.0と、前期(47.7)から2.3ポイント上昇した。また、販売価格BSIは▲3.5と、前期(▲1.7)から1.8ポイント低下した。</li> <li>今期の資金繰りBSIは▲26.3と、前期(▲15.0)から11.3ポイント悪化した。来期は▲26.3と、同水準で推移する見込みとなっている。</li> <li>29年度における設備投資の実施事業所割合は22.7%と、前年度(15.3%)から上昇する見込みとなっている。</li> <li>経営上の問題(複数回答)については、「仕入価格の上昇」(58.8%)の割合が最も高く、以下「人材不足」(50.0%)、「人件費の増加」(33.3%)と続いている。</li> </ul>
<p>サービス業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>29年7～9月期の業況判断BSIは▲12.0と、同4～6月期(▲14.1)から2.1ポイント改善し、続く29年10～12月期も▲9.0と、さらに3.0ポイント改善した。一方、足元の30年1～3月期は▲20.9と、11.9ポイント悪化する見込みとなっている。先行きについてみると、30年4～6月期は▲13.4と、再び改善する見通しとなっている。</li> <li>今期の生産・売上BSIは0.5と、前期(▲8.6)から9.1ポイント上昇し、マイナスからプラスに転じた。来期は▲12.4と大きく低下し、再びマイナスに転じる見込みとなっている。</li> <li>今期の仕入価格BSIは9.9と、前期(1.3)から8.6ポイント上昇した。また、販売価格BSIは▲0.5と、前期(▲6.3)から5.8ポイント上昇した。</li> <li>今期の資金繰りBSIは▲9.4と、前期(▲11.8)から2.4ポイント改善した。来期は▲8.9と、ほぼ同水準で推移する見込みとなっている。</li> <li>29年度における設備投資の実施事業所割合は22.6%と、前年度(17.0%)から上昇する見込みとなっている。</li> <li>経営上の問題(複数回答)については、「人材不足」(44.8%)の割合が最も高く、以下「労働力不足」(30.8%)、「競争の激化」(29.9%)と続いている。</li> </ul>